もっと！ギュッと！つばめっ子ニュース

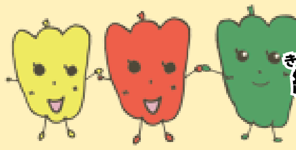
平成27年10月15日発行
広報つばめ「子ども版」
Vol. 4

～もくじ～

P2・3…西部学校給食センター
P4・5…分水おいらん道中
P6・7…つばめっ子かるた
P8・9…燕市の産業について
P10・11…特別ミッション①
（大河津分水路について）
P12……編集後記
特別ミッション②
（つば九郎への突撃取材）

子ども記者の活動記録ビデオを作成しました。燕市公式ウェブサイトで公開中です。

新しくなった給食センターに潜入取材！



パプリカ兄弟とピーマンちゃん © 子ども記者チームA

おこめちゃん © 子ども記者チームA

チームAが取材しました(^^)

きたざわはるか　おのでらあいか　まるやましおり　たなかしほ　はらあかり

わたしたちは、新しくできた西部学校給食センターへ取材に行ってきました。皆さんは給食が作られている西部学校給食センターを知っていますか？その秘密を教えちゃいます！

じゃがいも君 © 子ども記者チームA

新しくできた給食センターとは

西部学校給食センターは、昨年の7月に完成し、9月から稼働しました。

この新しい給食センターを造ったのは、吉田と分水地区の学校給食センター（※）が古くなって、今の衛生基準に当てはまらなくなったからです。

施設の一番の特徴は、ドライシステムです。これまでのウエットシステムとくらべて、より衛生的に給食を調理できます。

ほかには、調理の流れが一直線になっていることです。食材を検品・納品してから調理し、最後に配送のためのコンテナ室に入るまで、行ったり来たりがありません。

このセンターには、調理員さんが30人、コンテナをトラックに積んでそれぞれの学校に配送する担当が8人となっており、たくさんの人で運営されています。

作る量は、小学校7校と中学校2校の計9校で約3300人分もの給食を作っています。

ニンジンちゃん © 子ども記者チームA

キュウリ先輩とダイコンちゃん © 子ども記者チームA

給食センターの機械について

皆さんは、どのような調理器具で給食を作っているか知っていますか。

ここでは、ごはん、汁物、副菜に分けて説明していきます。

まずは、みんな大好きなごはん…からです。写真①を見てください。ご飯を炊き終って炊飯の機械から出てきた写真です。お米は大きなタンクに保管されていて、炊飯室と言う場所で、お米を洗い、機械で炊いて各校に分けます。

次は汁物です。写真②を見てください。これは汁物を作るときのお鍋の写真です。でっかい…ですね。家庭のお風呂くらいの水が入るそうですよ、すごいですね!! 野菜は写真③のような器具で切られています。

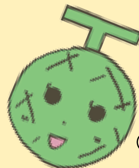
最後に、副菜です。副菜は和え物室で作ります。野菜は、汁物と同じく機械で切ります。和えるときは和え物専用の大きな鍋に入れ、人の手で混ぜるそうです。和え物用の釜は3釜あって、1釜でなんと約1100人分。3釜で約3300人分になります。やっぱり作る量がハンパじゃない！

なす君 © 子ども記者チームA

●写真①

●写真②

●写真③


メロンちゃん © 子ども記者チームA

（※）燕地区については、平成30年度からの給食提供を目指し、現在、「東部学校給食センター」の建設に向けて設計業務に取り組んでいます。

給食センターの職員の皆さんへインタビュー

●お話を伺ったお二人

▲栄養士の和田さん

▲調理責任者の大橋さん

Q1 毎朝、何時くらいから給食を作っているのですか？

A1 8時から朝礼をして作り始めます。

Q2 給食のおいしさの秘密はありますか？

A2 ここでは野菜など、たくさんの量を使い、いっぱい炒めたりしているのでおいしくなります。それと、やっぱり調理員さんの愛情ですね！

Q3 給食を調理するときに気を付けていることは？

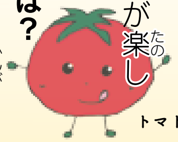
A3 皆さんが安心して食べれるように食材に異物が入ってないかなどを気を付けています。

Q4 給食を作るとき、楽しいところは？

A4 新しいメニューに挑戦するときが楽しいところです。

Q5 給食を作るとき、大変なところは？

A5 皆さんが安全に給食を食べるために考えながら作るのが大変なところです。


トマトちゃん © 子ども記者チームA

Q6 献立はどのようにして決めるのですか？

A6 エネルギーや栄養素など必要なものを計算して、どんな食材を使えば、成長に必要な栄養素がとれるのかを考え、季節・旬のものをおいしく食べてもらいたいということで決めています。

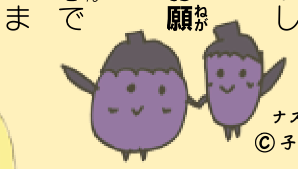
Q7 ほかの市の献立を参考にしていますか？

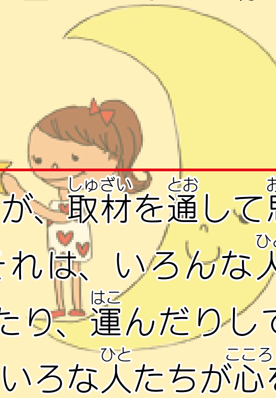
A7 栄養士仲間で情報を交換したり、売っている料理の本やご飯を食べに行ったりして、給食の参考にしています。

Q8 燕市の子どもたちにメッセージをお願いします。

A8（大橋さん）毎日、調理員全員で安心で安全なおいしい給食を頑張って作っています。工夫しながら調理しているので、これからも残さずにたくさん食べてもらいたいです。

A8（和田さん）栄養を考えて給食を作っているので、できるだけ全部食べてほしいです。各クラスに必要な量を出しているので全部盛りきって、自分はこれだけの量が必要なんだというのを目で確認してほしいです。毎日色んな料理を作っているので、食材や料理の味を楽しんでくださいね。


ナス兄弟 © 子ども記者チームA



まとめ

わたしたちが、取材を通して思ったことがあります。それは、いろんな人が協力して給食を作ったり、運んだりしていることです。そのいろいろな人たちが心をこめて作ってくれた給食を味わって食べましょう。

●取材の最後に皆さんと

●白衣に着替えてパチリ

カボチャ丸 © 子ども記者チームA

おいらん道中の裏側に潜入!!

チームBが取材しました (*･∀･*)/

あべなり　あおきうきょう　まつなわいおり　よしおかしおり　しみずまゆ

燕市で行われているイベントの１つ、分水おいらん道中の裏側に潜入しました。高下駄を履いたり、とても大きなかさを持つ体験をしました。

そして、おいらん道中専門委員会長の吉江さん、専門委員の須田さん、燕市観光協会の佐藤さんにインタビューをしました。

▲取材は、おいらん道中スタート地点の分水福祉会館にて

歩きにくい高下駄

おいらん道中の高下駄は10cm（センチメートル）ほどの高さがある下駄です。最初においらん道中専門委員の須田さんが、おいらんさん独特の歩き方「外八文字」のお手本を見せてくださいました。

そのあと女子は二人のペアになって体験をしました。高下駄は足の指を入れるところがとても小さくて、なぜなのか聞いてみると、「おいらんさんが歩いているときに下駄が脱げると大変だから」とのことでした。

わたしたちは外八文字ではなく、まっすぐ歩く体験をしました。下駄を履いて立って、実際に歩いてみると、とてもバランスがとりにくく、転びそうになりました。

外八文字をして歩いているおいらんさんがすごいなと思いました。実際に体験してみてわかったことがたくさんあって、とても楽しかったです。

▲実際においらん道中で使う高下駄を履いてみました。

高下駄 ©子ども記者チームB

とても重かったかさ

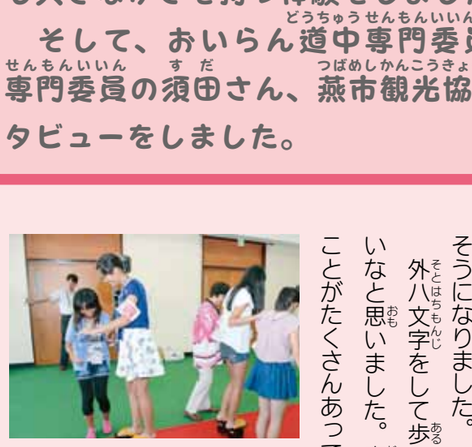
わたしは、おいらん道中で使われる「かさ」を初めて持ってみて「すごく重いなぁ」と思いました。

持ち方は、片手ではなくて、両手で持つということがわかりました。

体の前ではなくて後ろにもって1.6km（キロメートル）も歩くのは難しいことがわかりました。

相当な力がないと歩けません、子どもの力ではとても難しいです。

おいらん道中に出る、かさ持ち役の人は本当にすごい力を持っているんだなと感じました。わたしは、次の日には腕が筋肉痛になっていました。



▲とても重かった、かさ持ち役の傘です。

かさ（信濃太夫）©子ども記者チームB

ざぶとん ©子ども記者チームB

おいらん道中についてインタビューをしました！

▲分水おいらん道中専門委員会長の吉江さん

▲分水おいらん道中専門委員の須田さん

▲燕市観光協会の佐藤さん

Q１ おいらん道中当日は、どれくらいのお客さんが来るのですか？

A１ 毎年10万人くらいの人が訪れます。お客さんは県内の人ばかりではなくて全国から集まります。最近は外国人のお客さんも多くなっています。

Q２ 着付けやメイクが完成するまでにどれくらいの時間がかかりますか？

A２ 参加者70人全員が支度を完了するために、美容師さんや衣装屋さんなど、50人以上のスタッフで朝７時から約５時間くらいかかります。

Q３ おいらん道中はどれくらいの距離を歩くのですか？

A３ 約1.6km（キロメートル）です。

Q４ おいらん役の着物とかつらで何kg（キログラム）くらいになるのですか？

A４ 衣装やかつらや下駄などの総重量は、約30kg（キログラム）と言われています。ただし、現在は素材も変わっていて、軽量化されてきています。現在は約25kg（キログラム）くらいと考えられます。この重さを着用しながら、1.6km（キロメートル）の道中を歩かなければならないのです。

取材でわかったこと

取材して分かったことは、おいらん道中の初めは仮装行列だったことです。それを見に来るお客さんが増えたから、そのお客さんを喜ばせたいという地元の人たちの「おもてなし」の心で始まったということもすごいと思いました。

体験をして分かったことは、二つあります。

一つ目は、高下駄を履いたときの歩きにくさです。普通のくつよりも高く、とてもバランスがとりにくいです。わたしたちは普通に歩いたにも関わらず今にも転びそうでした。

二つ目は、かさ持ちがもつ「かさ」の重たさです。わたしたちが普段使うかさより大きく、持つ部分はとても長いです。歩くのにも一苦労で、持ち方のコツがあり、正しい持ち方をすると、軽く感じることがわかりました。

ちょうちん ©子ども記者チームB

まとめ

かさはとても重くて、下駄は履きづらかったです。約25kg（キログラム）の着物やかつらなどを着用して、1.6km（キロメートル）の道中を歩くおいらんさんたちがすごいと思いました。

たくさんの人たちの手で、分水おいらん道中は開催されているのです。

たばこ盆 ©子ども記者チームB

潜入！燕のシンボル
～つばめっ子かるたの秘密～

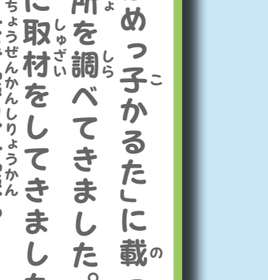
チームCが取材しました(^^)

わたしたちは「つばめっ子かるた」に載っている地域ごとの場所を調べてきました。今回は建物をメインに取材をしてきました（国上寺・水道の塔・長善館史料館）。

【クイズ】
Q１　上の３つの絵は何でしょうか？
Q２　①②③の場所はどこでしょうか？

※クイズの回答は、次ページの下段にあります。

①国上寺の住職さんに聞いてみた



●国上寺の歴史について

西暦７０９年、金智というお坊さんが国上寺を建てました。なぜ、国上山に建てられたかというと、最初は修行の場所だったからです。

●ほかにはない特徴

まず良寛さまが住んでいた「五合庵」があることです。そして、境内の講堂には千手観音像があり、上杉謙信より祈願寺（※）とされました。

●住職さんのお仕事について

いつもどのようなお仕事をしているのかというと、お寺の運営、法事やお葬式などへの対応をしています。

そして、このほかにもペットの火葬や供養、生まれる前の赤ちゃんが亡くなってしまった場合の供養など、色んな仕事があります。

●住職さんのお仕事の中で難しいこと

大切な人や、家族同然であったペットが亡くなったとき、のこされた家族が悲しんでいるところにどんな言葉をかけることができるか？悲しみへの対応がとても難しいです。

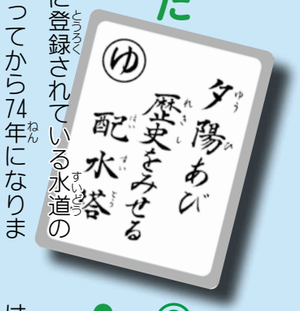
●住職さんからのメッセージ

時間はあっという間に過ぎてしまいます。何をすべきなのか夢を持って信念の思うところに進むことが大切です。しっかりと目標を定めて、何をしなければならないかを考えて頑張ってください。

▲国上寺の講堂にて住職さんから歴史などについて取材しました。

（※）祈願寺…人々が神仏に願い事を行う寺社

②水道の塔に登ってみた



●水道の塔は建ってから74年

燕地区にある、国登録有形文化財に登録されている水道の塔に行きました。この水道の塔は建ってから74年になります。設計の責任者は「西出辰二郎」さんです。

この人は帝国大学（現在…東京大学）で土木の勉強をし、浄水場など全国の水道施設の建設に関わった専門の人です。

●大分県中津市の水道の塔がモデル？

燕市の水道の塔はなんと、大分県中津市のものがモデルとなっているのです。皆さん知っていましたか？

●戦争の影響

ただ「モデルにした」のではなく、浄水場建設を始めた昭和13年は、日本は戦争中であったので、いろんな武器や飛行機を作る必要がありました。なので資源が少なく、鉄などが不足していたので、建設開始後に使用量を減らせと国から命令がありました。

そこでどうしようかと考えたところ、中津市のものは使用する鉄の量が少なく、燕が造ろうとしていたものに規模が似ており、急に変更しなくてはいけなかったので、モデルとなりました。

▲市役所社会教育課の松島さんから説明していただきました。

③長善館史料館に行ってみた

●日本で2番目に長く続いたスゴイ私塾だった

皆さん、長善館史料館を知ってますか？　長善館というのは１８３３年（天保４年）に鈴木文臺先生が始めた私塾です。長善館史料館には厳しい規則があり、11個の規則と７つの禁止事項がありました。そして閉館までに１０００人以上の人が卒業したそうです。その中には、政治家、学者、医者など色んな分野で活躍した人たちもいました。そんな長善館ですが、実は全国で２番目に長く続いたスゴイ私塾だったのです。

●長善館は80年も続いた…

しかし、明治時代になり小中学校が出来て、塾生がそちらに行くようになったので、80年続いた長善館も１９１２年（明治45年）ついに閉館となりました。

●館長さんからのメッセージ

「長善館史料館にたくさんの子どもたちから見学にきてほしいですね。長善館の素晴らしさ、ここから勉強していった門人たちの偉大さを感じてもらうことで、世界に羽ばたける人材になってほしいです」とのことでした。皆さんも学校で頑張って勉強しましょう。

▲長善館史料館の倉橋館長さんと江部さんからお話をお聞きました。

まとめ・感想

実際に潜入して、それぞれの建物には秘密があることに気が付きました。水道の塔のデザインの秘密、長善館の歴史の秘密。などなど、初耳情報がたくさんありました。皆さんも、新聞などを読んで、気になったことをどんどん調べてみてください。

学ぶ生徒 ©子ども記者チームC

クイズの回答…Q１…つばめっ子かるた／Q２…①国上寺　②水道の塔　③長善館

カトラリー3兄弟 ©子ども記者チームD

見たい！知りたい！ 燕市の産業！

チームDが取材しました(^^)

きむらまりあ　やまかみれな　えぐちみか　はやかわなな

燕市は「ものづくりのまち」と言われています。わたしたちは、ものづくりに関わる皆さんを取材してきました。

いろんな人により支えられて、素晴らしい品物が完成します。その裏側に潜入してきました。

世界で使われている燕の金属洋食器 金属洋食器の原材料ってなに？

燕市の金属洋食器は、世界で活躍しているのを知っていますか？ それを調べるために金属洋食器を作っている**「山崎金属工業株式会社」**へ行ってきました。なんと、この会社で作られている金属洋食器がスウェーデンで行われている**「ノーベル賞授賞式の晩餐会」**で使われているんです。皆さん知っていましたか？

でもこれだけではありません！ 世界中の国で燕市で作られた金属洋食器は使われています。しかし、その国によってサイズやデザインもさまざまなので、作るときには大変苦労するそうです。

いろいろなデザインを作るということは、ノーベル賞の晩餐会でも毎年色んな種類を作っているのでは…と思いませんか？ でも違います。デザインは変わっておらず1991年から、**25年間**も使われ続けています。スゴイですね！

こんな素晴らしい技術がある燕市、どんどんPRしていきましょう。

▲ノーベル賞の晩餐会で使われている金属洋食器。

次に調べたのは、スプーンなどの洋食器の原材料となるステンレスについてです。

ステンレスを取り扱っている**「恒成株式会社」**に行ってきました。ここでは、50人くらいの皆さんが働いています。

働いている人に「この仕事をやって良かったと思うときはどんなときですか？」と聞いたら、〝わたしたちが品物を納期通りに納品して感謝されるのが一番の喜び〟と言っていました。

そして、ステンレスはどのように作るか聞いてみました。鉄・クロム・ニッケルを溶かして混ぜてステンレスは作られているそうです。このようにするとさびにくくなるそうです。

最後にステンレスの加工を一言でいうと？ と聞いたら「最終商品を作るわけじゃないのですが製造屋さんの縁の下の力持ちだと思います」と言っていました。

そういうお話を聞き、とっても大事な仕事だと思いました。

▲ステンレス鋼材を加工しているようす。

ぴっかぴか～ ©子ども記者チームD

スプーン磨き体験 ©子ども記者チームD

スプーン磨きって難しい!!

最後に取材をしたのが、磨きの技術を教える**「磨き屋一番館」**です。

ここは、磨き屋さんを育てる学校みたいなところです。スプーンやフォーク、それにカップ、お皿、機械部品も磨いているそうです。わたしたちは実際にスプーン磨きの体験をしてきました。

最初は、楽しそうだと思いましたが、やってみると研磨機の回転が速くて大変でした。わたしたちはこの体験で、**「磨く」**ということがとても大変だということが分かりました。なんと、磨きのテクニックをマスターするには5～10年もかかるそうです。でも、とても楽しかったので、皆さんも体験してみてください。

この仕事は品物の最終工程ということで、皆さん真剣に磨いていることを知ると、とても素晴らしいと思いました。

▲チームDの編集長が磨きの体験中

編集長がんばれー！

皆さんにインタビューをしました！

●磨き屋一番館

Q1 磨き屋一番館ではどんなことをしているのですか？

A1 1つ目は磨きの勉強です。2つ目は、磨きの技術のPRです。3つ目は一般の皆さんへ工場見学やスプーンやカップの磨き体験を行っています。

Q2 磨き屋一番館をなぜ造ったのですか？

A2 磨き屋さんは、昔はたくさんいましたが、皆さん年をとって磨けなくなったので、磨き職人を育てる学校のような所をつくりました。

●恒成株式会社

Q1 どんな仕事をしているのですか？

A1 ステンレスをお客様に頼まれた大きさに切って届ける仕事をしています。

Q2 社長さんから一言お願いします。

A2 燕の加工技術で、ステンレスなどの素材は良い商品になります。今後も、燕のものづくりを支えていきたいです。

●山崎金属工業株式会社

Q1 ノーベル賞晩餐会でカトラリー(※)が使われるようになった理由は？

A1 昔からスウェーデンに金属洋食器を輸出しており、色んな関係がありました。1991年にノーベル財団が90周年を迎え、知り合いだったスウェーデンのデザイナー、ゴナ・セリンさんから晩餐会用カトラリーの製作の話があったのがきっかけでした。

Q2 市内の子どもたちにメッセージをお願いします。

A2 燕の製品はとても素晴らしい品質です。これを誇りに思ってください。皆さんが大きくなったら、世界に燕の●●づくりは素晴らしいと宣伝してくださいね。

(※)カトラリー(cutlery)とは、食卓で使用するナイフ、フォーク、スプーンを総称していう英語。【なるほどカトラリー(カトラリー検定公式テキスト)より】

▲社長さん

▲工場長さん

▲工場長さん

▲社長さん

▲理事長さん

まとめ

このように燕の産業は、世界にとっても誇れることだとわかりました。この誇りをたくさんの人に知ってもらい、伝統になるように努力していきたいです！

チームDのメンバー ©子ども記者チームD

特別ミッション1

わたしたちの生活を守る 大河津分水路をリサーチせよ！

わたしたちの生活を陰で支えている大河津分水路。市役所の広報課長さんから出た「特別ミッション」を受けて、大河津分水路を全員で取材してきました。歴史や仕組み、そして、より安全にするため、この先18年間にわたる大工事など、大河津分水路についてお伝えします！

大河津分水路の 1 歴史

チームAがリサーチ！

「横田切れ」から来年で120年？？？

●とても大変だった工事

大河津分水路を建設する大きなきっかけとなった大水害「横田切れ（1896年・明治29）」。来年で120年を迎えます。この水害では、越後平野のほぼ全域が一カ月にもわたり水に浸かってしまったそうです。

1909年（明治42）から本格的に建設が始まりました。当時、最新技術が用いられましたが、大変な工事であったそうです。

1922年（大正11）に通水した後も重要な施設が急に壊れたので補修工事を行い、1931年（昭和6）大河津分水路が完成しました。

近年、老朽化した洗堰を2000年（平成12）に、可動堰を2011年（平成23）に新しくしました。

▲横田切れの洪水で親子が流される様子。

大河津分水路の 2 役割

大河津分水路によりおいしいお米に？

●舟を使って稲刈り

大河津分水路が出来るまでは、泥ぶかい田んぼでお米を作っていました。

なんと腰まで水に浸かりながらお米を作っていたんです。お米の味も今のようにおいしいものではありませんでした。

しかし、大河津分水路ができて越後平野の水害が減りました。このことで、田んぼの水を抜きやすくなり、お米づくりがしやすくなりました。

さらに土地改良も進んで、収穫量も3倍に増えたそうです。

そして、わたしたちに身近な新幹線や高速道路も、水害が減り湿地帯が減少したことで、地盤の高い山沿いにではなく越後平野の中心に建設することができたのです。

▲舟を使って稲刈りをしている様子。

チームBがリサーチ！

新たに始まる工事の 3 内容

チームCがリサーチ！

なんと!! 18年もかかるの～！

●安全に洪水を流すために

皆さん「ゲリラ豪雨」という言葉を知っていますか？ 昔と今では雨の降り方が変化しています。

また、大河津分水路は、下流に近づくにつれて川幅が狭くなっているので、水を流せる量が少なくなってしまいます。

これらのことから、河口部の川幅を約100m（メートル）広げ、洪水をより安全に流せるようにします。

とても大変な工事なのでこれから約18年もかかります。わたしたちは大人になっていますね。

▲上流の川幅は720mですが、下流では180mになります。

新たに始まる工事の 4 効果

チームDがリサーチ！

安心して暮らしていくために…

●信濃川の広い範囲で安全に！

現在のままだと、大洪水がおきて、もしも大河津分水路の堤防が壊れてしまった場合、想像もできないくらい大きな被害が出てしまいます。

新たに始まる工事が完了すると、当面の整備目標の洪水が流れた場合でも、水位が下がり安全に流すことができます。また大河津分水路だけではなく、信濃川の広い範囲でより安全になるのです。しかし心配はなくなりません。水害には注意する必要がありますね。

◀河口付近は洪水になるとこのようになります。

番外編 5 コラム

燕市と松山市の縁？

現在、燕市では「つばめ」つながりで「東京ヤクルトスワローズ」との連携をきっかけに秋季キャンプ地の愛媛県松山市と交流をしています。

ですが…なんと、昔から燕市と松山市は縁があったのです。

1927年（昭和2）に大河津分水路の自在堰という施設が突然壊れました。この補修を任されたのが宮本武之輔（松山市興居島出身）です。

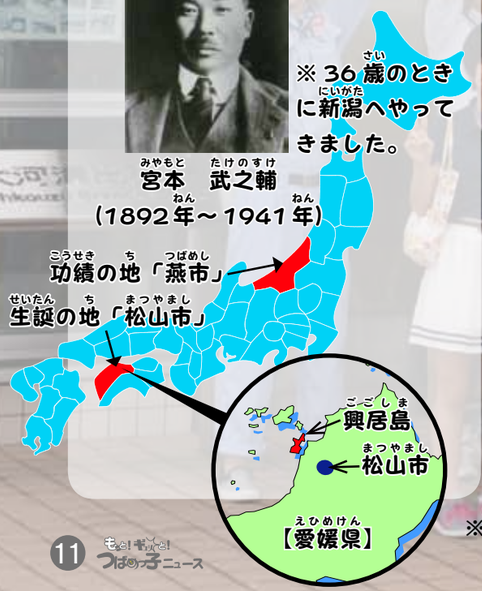
特に重要な施設であったため、わずか4年で補修工事を完了させました。

宮本武之輔の生誕の地「松山市」と功績の地「燕市」。こんな偶然のつながりがあったのです。

その他にも、有名な歌人の正岡子規（松山市出身）と鈴木虎雄（燕市名誉市民）との交流もあったそうですよ。

宮本　武之輔
（1892年～1941年）

※36歳のときに新潟へやってきました。



※写真提供・取材協力：国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所・信濃川大河津資料館・下田家（長岡市中之島）

編集後記

取材・編集を終えて、19人の子ども記者の皆さんから、楽しかったことや大変だったことなど、感想を聞きました。

チームA

【編集長】
吉田南小6年
丸山　栞里
わたしは、編集長になってとまどったこともあったけど、ちゃんと作れて良かったです。

【副編集長】
吉田南小5年
田中　志帆
わたしは取材に行って大変だったことはカメラです。カメラは、意外と重かったです。

【副編集長】
吉田北小5年
北澤　春花
カメラの使い方が難しかったです。他校のみんなと仲良く取材が出来て楽しかったです。

燕東小5年
原　朱里
大変だったことは取材です。カメラを使ったことが、初めてだったので大変でした。

燕西小６年
小野寺 愛香
去年は、初めてで難しかったけど今年は去年より何千倍も楽しめてうれしかったです。

チームB

【編集長】
吉田北小6年
松繩　衣織
編集長としての仕事が意外に多かった。また、写真を撮るときにブレないようにしました。

【副編集長】
分水小6年
吉岡　栞
グループで協力して1つのことをやりとげられたことが、とてもうれしかったです。

小中川小6年
青木　佑京
ぼくが大変だったことは、カメラのアングルと文章をまとめることでした。

燕北小6年
清水　麻由
取材は、燕のことをよく知るいい機会でした。この経験を生かしていきたいです。

吉田北小5年
阿部　菜々里
子ども記者で、多くの知らない知識を得ることができ、よい経験となりました。

チームC

【編集長】
吉田南小5年
小川　香澄
初めての取材で、ワクワクしました。チームのみんなとの会議が特に楽しかったです。

【副編集長】
燕北小５年
岡部　悠太
初めて参加しました。とても楽しかったけど編集が大変でした。

【副編集長】
吉田北小6年
西森　暖人
初めてこの活動に参加しました。一眼レフを使ったのは初めてだったので緊張しました。

燕北小6年
片岡　佑月
去年もこの活動に参加しました。今年も友だちがたくさんできて、よい経験でした。

燕西小6年
寺尾　美希
わたしは、去年も参加しました。いろいろな友だちも増えたのでよかったです。

チームD

【編集長】
吉田北小6年
山上　麗奈
取材は楽しかったけど、まとめ作業が大変でした。でも、いい経験になりました!

【副編集長】
分水小6年
江口　美夏
編集作業が大変でしたが、友だちと協力しながらできたので、とても楽しかったです。

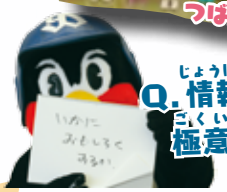
燕南小6年
早川　奈菜
少しの間だったけど、みんなと協力して取材や会議ができてよかったです。

吉田南小6年
木村　まり杏
2年連続子ども記者をしました。2年間の経験をこれからに生かしていきたいです。

まだまだ終わらない！ 特別ミッション第二弾!

燕市PR隊鳥（長）つば九郎に突撃取材を実施せよ!

今回は、取材前に「じょうほうはっしんのごくい（情報発信の極意）」のお題でつば九郎先生からの特別授業を実施！ その後、子ども記者からのインタビュー取材に答えてもらいました。



Q.情報発信の極意は？
A.いかにおもしろくするか

特別ミッション 2

Q.大好きなお米は何？
A.つばくろうまい

※つば九郎は、プロ野球・東京ヤクルトスワローズのマスコットキャラクターです。

発行／燕市　編集・企画／広報つばめ子ども記者・燕市　〒959-0295 燕市吉田西太田1934番地　☎0256-92-1111　FAX0256-92-2112　koho@city.tsubame.niigata.jp　http://www.city.tsubame.niigata.jp/